

## 大町の学生向け シェアハウスを視察

日本共産党議員団は5月23日、大町の町屋を改造・整備した学生向けのシェアハウスを視察しました。

古い構造を巧みに生かした工夫が随所にあり、住みやすい設備も取りそろえられていました。



# 「国宝よりも暮らしを」「まず雁木の整備を」などの声

## 日本共産党議員団が6月議会を前に市政報告会



日本共産党議員団は、5月23日に「市政報告会」を行いました。会場には20人以上の市民が参加しました。

最初に橋爪団長が、「間もなくの6月議会で、みなさんの意見を直接議会論戦に生かしたい」と挨拶。続いて衆院6区予定候補の立場で上野副団長が「安倍政権の暴走で、日本の平和と市民の暮らしはますます追い込まれている。総選挙で安倍政権に退陣を迫り、政治を変えて市民の暮らしを守りたい」と、決意を述べました。

続いて、平良木議員を中心に、4人がそれぞれの担当分野について、市政の現状や国政の課題について報告しました。

市政については、保育料の引き下げや子育て支援の充実などが行われている反面、建設事業に多くの予算が割かれていること、市民の間で賛否がわかれている

いる国宝の購入が進められていること、市発注の工事では不透明な入札がなくならず、改善の兆しが見えないことなどが語られました。また、三和区宮崎新田の放置産廃の撤去に見通しがついたこと、頸北斎場は市民からの率直な声が大きき力になって存続することになったことなどが報告されました。

国政の課題では、憲法改悪の動きはきわめて危険なところまで来ていること、共謀罪創設の策動も何とかしてストップさせなければならぬことなどが報告されました。

こうした報告に対して、参加した市民からは、「国宝を買うお金があれば、国保税や介護保険料を下げてほしい」「寄付を集めるといって結局は大半が市民の税金から出すことになるのではないか」「春日区内でも、『埋蔵文化財センター』に展示するのならばともかく、そうでなければいけない」という声が多い。60日しか展示できないのではどうしようもないなど、国宝の購入に関する意見や疑問が数多く出されました。

また、「大きな建物は造る前にしっかりと市民の意見を聞くべきだ」「高田や直江津の雁木はでこぼこして、歩くのも大変。何とかしてほしい」「共謀罪は、一般市民がある日突然犯罪者にされる危険があると聞く。どうしても止めたい」「頸北斎場は、市民が政治を動かした。こうした市民の運動を強めたい」などの声が続々に出されました。

## 直江津・頸城の会が 第9回定期総会



在来線の鉄道と  
沿線地域の発展をめざして

## 日本共産党上越市議員団ニュース

No. 548 2017年6月4日

連絡先 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)  
橋本 正幸 080-1980-9855 (三和区鴨井)  
上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)  
平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田)

在来線と地域のあり方を考える直江津・頸城の会(仲田紀夫会長)は、5月27日、第9回定期総会を開催しました。

新幹線の開業と並行在来線のJRからの経営分離から2年となり、えちごトキめき鉄道の利用者も、ゴールデンウィークなどは向上してきています。

こうした中、市民の願いである切符販売の利便性向上や乗り継ぎダイヤの改善などが図られてきましたが、背景となる市民運動の中心を担ってきたのが、この直江津・頸城の会などの市民団

体です。

最初に挨拶に立った仲田会長は、「並行在来線のJRからの切り離しは市民生活に大きな影響を与えるという危機感から運動を展開してきた。多くの成果もあるが、糸魚川～新潟間の直通列車の廃止やほくほく線の車両にトイレがないことなど、まだ課題は多い。加えてJRは市民の意見を聞こうとする姿勢が見えない。沿線自治体も含めて、要望活動をさらに行っていく必要がある」と、運動の継続を訴えました。

総会では、今後も市民の声を生かしながら、行政当局や各鉄道事業者への要望活動を展開していくことが確認されました。



挨拶する仲田会長